平成２９年度　「特色ある学校づくり対策事業」実践事例報告

佐世保市立宇久中学校

所在地　佐世保市宇久町平 2303 番地

校　長　田雜　健

生徒数　２６名　　学級数　３

～郷土を愛し、郷土に貢献する心を養う～

○本校における特色ある学校づくりの目的

本校生徒は、１島１中学校で、地域住民の方々の温かいご支援を受けて育っている。しかし、高校を卒業するとほとんどの生徒が島外へ進学・就職していく実態がある。

そこで、島を出るまでに生き抜く力をしっかりつけること、どこに行っても、地域で育まれ、愛されてきたことがバックボーンとなって自信を持って歩んでいくことができること、また、地域を愛し、地域の発展に貢献することができるように、以下の取組内容を設定した。

１　学力向上	２　環境自然
３　郷土学習	４　進路学習

○取組内容

１　学力向上

（１）朝自習テストの完全合格

①　国・数・英の３教科を学力重点教科とし、朝自習で学習に取り組み、月末に確認テストを実施した。テスト作成と合否の管理は教科担任が行い、テスト監督や採点は学年全職員で協力して取り組んだ。

②　下記のことを実践。

(ア)教室に掲示する週行事に、毎月のテスト実施日を提示した。

(イ)個人カードを作成し、実施日、点数、合否を記入し、テスト前（受験級の確認）とテスト後（合否確認）、生徒に確認させた。

(ウ)該当級を初めて受験し、一回目で合格できた生徒に対しては、合格シールをカードに貼付した。

(エ)各教科年間３回テストを実施したが、すべて１回目で合格した生徒には全校集会で表彰を行う。

③　毎回合格できなかった生徒に対しては、教科担任が昼休みと放課後に通常のテストを２～３回に分けて学習させ、再テストを実施し、合格したら進級させる方策をとり、中学校３年間を通して１級を取得することを目標に実施した。

１回で合格できるよう、努力をして臨む姿が見られた。

（2）家庭学習

宿題とは別に、毎日 2 ページの家庭学習を行っている。「家庭学習ｄｅ登山」と題し、家庭学習の量を確保するように取り組んでいる。質については、まだ不十分な部分があるので、今後の検討課題である。

（3）小中高での授業研究



小中高全教員で、それぞれの校種の授業を公開し、授業研究を開催。今年度は小学校で算数、中学校で道徳、高校で保健体育のそれぞれの研究授業を行った。

12 年間を見据えた学習指導の在り方について、研究を深めるため、指導案の基礎的部分の統一、授業研究会でのワークショップ形式での討議など、様々な方策を通して、児童生徒の学力向上を図った。

2　環境自然

五島列島最北端の宇久島は、大変美しい環境に恵まれていると同時に、少子高齢化という過疎化も深刻化している。美しい地域を守るとともに、宇久島を維持していくために、自分たちにできることは何かを考え活動している。その取組について紹介する。

（1）海岸清掃（６月２０日）



郷土の身近な自然の実態を知ることにより環境保全の心や宇久の自然を愛する心を育てるとともに、小中高が協力して自分ができることを考え、実践する機会とすることを目的に行った。校種を問わない班編成を行い、大浜海岸で実施。地区の方もボランティアでお手伝いをしてくださり、地区と一体となった活動ができた。今年は残念ながら、途中から降雨となり、中断となった。

（2）花植え活動（６月１５日、１１月８日）

今年度から、地区老人会と一緒に町の美化活動を始めた。花苗を道路にある花壇に植える作業を、老人会の方たちに教えていただきながら、共同作業を行った。町を美しくすること、老人会の方と親しくなることで、宇久島を美しく維持していくことについて、考えを深める機会となった。





（3）栽培活動





５月３１日に学校園に芋植え、その後、水遣り等を行い、１０月１０日に見事な芋を収穫。収穫した芋は、調理を行い、美味しい芋天ぷらとなった。（１０月２４日）

３　郷土学習

（１）宇久地区無形文化財「なぎなた踊り」（全校生徒）

①「なぎなた踊り」とは

本飯良地区八幡神社に伝わる奉納踊り。さまざまな踊りの様式が入り乱れて伝承されたようで、一部には歌舞伎勧進帳の弁慶・富樫を模し、また、一部には弁慶・牛若丸を模していると言われている。一度途絶えた踊りを発掘したものであるため、長い間に徐々に変容していき、現在に至っている。

踊りは、弁慶・富樫を模した問答の後、緩やかななぎなた踊りに移る。お謡いにあわせて、大太刀（男踊り）、小太刀（女踊り）で踊る。

※統合前の神浦中学校が掘り起こして、現在本校で伝承している。

②本校での取組

目的を下記のとおり設定した。

- 郷土の伝統芸能を体験することにより，地域理解と宇久島のすばらしさを発見し伝統を継承する。
- 「なぎなた踊り」の歴史的背景を学習し，学んだことを表現する。
- 他学年とコミュニケーションを図りながら、協力して踊りを作り上げることの大切さを味わう。

＜実際の取組＞

・地域との連携

地域の方をゲストティーチャーとしてお招きし、ご指導いただくことで、できるだけ昔の形で残せるように取り組んでいる。



・リーダーの育成

大太刀、小太刀、お謡いとそれぞれ３年生がパートリーダーとなり、リーダーの指示のもと、自分たちで本時の目標を決め、取り組んでいる。







また、小学生の見学会を行い、「なぎなた踊り」　への興味・関心を養うとともに小・中学校の連携を深めている。



・地域の方への披露

例年、地域の方をお招きして、八幡神社での披露を行っている。昨年度より、神島神社大祭での拾うも行なっているが、今年は荒天のため中止となった。





（2）グラウンド・ゴルフ大会（全校生徒：６月１６日）

地域の方でグラウンド･ゴルフ専門家をゲストティーチャーとして招聘し、地区の高齢者とふれあいを図り、今後の宇久地区の在り方について考える機会とした。

昨年度から始めた行事であるが、今年度は昨年度を上回る老人会の参加があった。（老人会３３名　生徒２６名　保護者５名　教職員）

老人会･保護者･生徒を必ず入れて班構成をし、交流ができるチームを作ることで、非常に盛り上がりを見せた。

現在、老人会の皆さんは、学校グラウンドを利用して、毎日ゴルフをしている。学校にも老人会にもプラスの行事となり、学校が地区へ出来る貢献活動の一つとなった。





（3）わらじ作り体験活動（全校生徒：６月１６日）

なぎなた踊りで使用するわらじを、自分たちで作成するために、取り組んでいる。地区の方にゲストティーチャーとして来校いただいている。地区に伝わるわらじ作りを継承していけるように取り組んでいる。



（4）宇久島調べ（１年：１１月３０日～１月）



宇久島の歴史や文化について、宇久島在住の方に教えていただきながら調査活動を行い、最終的にプレゼンを行う。自分たちが住む宇久島には、どんな歴史があるのかを、実際にフィールドワークをすることで再発見し、後世に残していきたい宇久島の魅力を学習している。



４　進路学習

（１）職場体験学習（２，３年生:７月１２日～７月１４日）

島内での体験学習を行なっている。キャリア教育の最終段階として、実地体験を行なうことで自己実現へ向けて取り組んでいる。

（２）ゆめファイル




１年生で職業調べ、２、３年生で職場体験と、段階的にキャリア教育を行っている。また、職業だけではなく、どのように生きていくのかを考えるために、「ゆめファイル」を小中高通じて１冊持たせ、自分の考えの変遷をたどりながら、自己実現へ向けて取り組んでいる。